

御前崎市商工会 会長 河原崎 健司

御前崎市は、静岡市と浜松市のほぼ中間にある静岡県の最南端に位置しておりますので、温暖な気候であり、さらに日照時間は全国一を誇っております。

10月から4月にかけて「遠州のからっ風」と呼ばれる偏西風が吹くため、体感温度は寒く感じますが、この自然の恵みである気候と遠州のからっ風で、天日干して作った「芋切り干し」は江戸時代から遠州に伝わる保存食であり、当市は「さつま芋」の産地であり「干し芋」の発祥地でもあります。

半島のように太平洋に突き出ている地形ですが、駿河湾の湾口部にあり季節風に対して静穏なため、1948年から避難港として整備され、1951年には地方港湾に指定、1971年には国際貿易港として開港し本年開港50周年を迎えます。

港、海上からのアクセスに恵まれ、東京と大阪のほぼ中間に位置していることもあり、5万トン級の大型コンテナ船が受け入れ可能な国際コンテナターミナル、自動車の輸出拠点として世界に向けた海の玄関として、静岡県中西部の産業を支えています。

この他、近年では、大型客船誘致活動を行っており、大型クルーズ船の受け入れなども行ない、静岡県中西部地域の観光交流の拠点としても活用されております。

なお、港一帯は2015年8月にみなとオアシスに登録しており、周辺には御前崎市観光物産会館「なぶら館」、御前崎港に水揚げされる海産物販売などの商業施設「御前崎海鮮なぶら市場」、広大な芝生広場・海水浴場がある「マリンパーク御前崎」、「渚の交番」があります。

三遠南信地域の長野県高森町と友好都市提携しており、双方大きなイベントへの参加も毎年行われておりましたが、コロナ禍によりイベントも中止されました。

このようななか、高森町より特産のサクランボが御前崎市民に配布され、当市からはお茶を提供するなど相互の物産交流と当地で高森町のリンゴの即売会が実施されました。

友好都市という枠組みを越え、産業、広域観光、人と物の交流、情報の交流の連携を目指した三遠南信地域連携ビジョンに期待するとともに、微力ながら協力していきます。